

# 2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 22 日

所属	会計ファイナンス 研究科	職名	専任講師	氏名	寺嶋 康二
研究課題	経営者の自信過剰が財務報告に与える影響				
研究キーワード	自信過剰、財務報告、企業行動、業績予想、利益調整、資本調整	当年度計画に対する達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	9.産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし	該当なし	

## 1. 研究成果の概要

2022 年度は、共同研究の形で作業の効率的分担を行いつつ、まず自信過剰概念と利益の持続性に関する実証分析を行い、**The Japanese Accounting Review Research Workshop** にて報告を行った。当該研究では、自信の程度が大きい経営者が客観的には過大評価された利益を実現可能な恒久的な利益と捉え、①これをシグナルするために利益増加型の調整を実施するという仮説、②こうした経営者が想定する恒久的利益は実現される可能性が低く、利益の持続性が低いという仮説を設定し分析を行った。上記の仮説について、日本において豊富にサンプル取得が可能である経営者業績予想値に基づき経営者の自信の程度を測定し検証を行った結果、経営者の自信の程度と利益増加型の裁量的行動には正の関係性が観察され、経営者の自信の程度と利益の持続性には負の関係性が観察された。

また、2021 年度より着手していた、リキャップ CB 実施の経済的動機を分析した研究について、最終的なアウトプット先として経営財務研究に投稿を行い、査読対応を行っている。またそれに先駆け、ワーキングペーパーとして当該研究を公表した。なお、当該研究では、転換社債の発行と自己株式の取得を同時期に実施する資本政策である「リキャップ CB」を実施する企業の経済的動機を実証的に分析しており、(1)収益性指標改善による ROE の外生基準の達成、(2)経営者が最適と考える資本構成の実現、(3)転換社債発行に伴う裁定機会の提供を目的として当該資本政策を実施することを支持する証拠を入手しており、複合資本政策の決定要因に関する研究蓄積への貢献が期待される。

## 2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

### 【著書・論文（査読なし）】

「リキャップ CB 実施の経済的動機」積惟美、塚原慎、寺嶋康二（共著）、Working paper, Management Innovation Research Center, School of Business Administration, Hitotsubashi University Business School, No.233\_v3, pp.1 – 19, 2022 年 9 月。

### 【学会発表等】

「経営者の自信と利益の持続性」、寺嶋康二、塚原慎、積惟美、The Japanese Accounting Review Research Workshop、2022 年 3 月。

## 3. 主な経費

2022 年度は出先での文献渉猟に用いる目的で iPad を購入した。その他、各種学会費や、共同研究のための資料共有目的で利用する Dropbox 利用料を計上した。また、実証研究に用いる統計ソフトである stata を 2021 年度に購入したが、現状研究に用いている私物のパソコンでは統計分析にスペックが不足していたため、2023 年度に分析用パソコンを購入するために残額を繰り越している。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

**【科学研究費助成事業】**

・日本学術振興会、科学研究費 基盤研究(C)、課題名「経営者の心理的特性が財務報告に及ぼす影響に関する包括的研究」、課題番号 22K01814、研究者 寺嶋康二、塚原慎、積惟美（共同研究）、研究期間 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月。

(本文は2ページ以内にまとめること)